

## 会 議 錄

会議名	令和7年度第4回東浦町食育推進委員会	
開催日時	令和8年1月26日（月） 午後2時00分から午後3時35分	
開催場所	東浦町保健センター 多目的室	
出席者	委員	石川恭央氏、太田江美氏、林佑亮氏、水野雅宣氏、水野善久氏、山崎紀恵子氏、青山侑未氏、柴田裕子氏、田島由美子氏、間瀬千恵子氏、水野正明氏
	事務局	丸山健康課成人保健係長、園田健康課成人保健係主査、大岩商工農政課農政係主事、鶴島商工農政課農政係主事、鈴木商工農政課商工労政係主事
議題等	1 グルぐるキャンペーンについて 2 食育体験プログラム「Re-Bone モーニングを食べよう！」について 3 令和8年度計画について 4 その他	
傍聴者の数	0名	
審議内容	<p>◆事務局            委員の出席及び会議の成立を確認            委員長あいさつ            (議題1) グルぐるキャンペーンについて</p> <p>◆事務局            グルぐるキャンペーンの参加店舗向けアンケート結果について説明。            アンケート回答数は参加店舗数 13 店舗に対し 9 店舗で、回答率は 69% だった。アンケート結果から見て、Re-Bone グルメやキャンペーンについての周知、新規キャンペーン参加者の獲得、キャンペーン内容のマンネリ化、おから・摘果ぶどうの取り扱いの難しさといった課題が挙げられた。</p> <p>来年度のキャンペーン開催に向けて、「地域再生マネージャー事業」を活用し、キャンペーン実施期間中（7月～9月）に外部専門家派遣に店舗等を視察してもらうことで、具体的なアドバイスをいただき、来年度以降のキャンペーンに反映していきたい。</p>	

◇委員

回答を得られなかった店舗があった理由は何か。

◆事務局

具体的な理由はわからないが、回答が得られていない店舗に対しては複数回リマインドを行った。

◇委員

回答が得られない背景には、事業に対する温度感の差もあると思われる。今後は回答がない原因についても把握できるとよい。

◇委員

景品目当てでも来店してもらえたため、キャンペーンを行う効果はあったと思われる。一方で、実施期間が3か月間と長いため、利用者側・店舗側ともに中だるみが生じやすいと感じる。期間の見直しが必要ではないか。

◇委員長

利用者にもアンケートを実施すると面白いのではないか。どのような企画が良かったか、参加のきっかけは何か等把握できるといい。また、行政側としても、キャンペーンによりLINE登録者数がどれだけ増えたかといった成果を示すことができる。

◇委員

来年度の参加店舗を増やすための案はあるか。

◆事務局

具体的な内容はこれから検討する。まずは既存の参加店舗に継続して参加してもらうことが重要。また、摘果ぶどうを活用した商品開発が進んでいる店舗や、食育に力を入れているマルスなど関心のある事業者に対し、積極的に参加を依頼し店舗数を増やしていきたい。

◇委員

各店舗に対しては、「今後も参加したい」と思ってもらえる利点を前面に出していくことが重要である。参加店舗から情報を聞き取り、アンケート未回答店舗とは温度感の調整を行えると、意味のあるキャンペーンになると思う。

また、複数店舗を回るウォークラリー形式のイベントも行ってみてはどうか。知らない店舗を知るきっかけとなる。

◇委員長

地域再生マネージャー事業は、令和8年度に専門家の方にお越しにいただくため、改善は再来年度以降の実施となるのか。

◆事務局

専門家からの指摘を具体的に活かすのは再来年以降になる。この事業は、外部専門家が各地でご当地グルメの開発や観光 PR を行う事業であり、ふるさと財団を通じて本キャンペーンに適した人材を派遣してもらう想定である。来年度中に出た意見をすぐに事業へ反映することは難しいが、それまでに改善が可能な内容については随時改善していきたい。

◇委員長

来年度のみの取組となるのか。

◆事務局

2年目からはどのように事業を進めていくか専門家の助言をもとに進めていくことになるため、助言内容や予算状況を踏まえ検討し、可能であれば再来年度以降も継続したい。

◇委員

事業を盛り上げるためにには、参加店舗数を増やすことが重要である。ただし、アンケート結果をみるとグルメ開発は店舗側の負担が大きく、協力はしたいが開発が難しいから参加できない店舗もある。そのため、グルメ提供は難しいが取組に参加意欲のある店舗には、レジ横にクイズ等を設置しそれをポイント対象とするなど、別の参加方法も考えられる。最初はクイズ形式だけで参加し、一年かけてグルメ開発を行うなど、グルメ提供以外で段階的に参加できる仕組みを検討するとよい。

（議題2）食育体験プログラム「Re-Bone モーニングを食べよう！」について

◆事務局

食育体験プログラム「Re-Bone モーニングを食べよう！」の企画内容について説明。

町内の小中学生およびその保護者を対象に、朝食啓発を主な目的とした食育体験プログラムを実施する。石浜のラソプラザにて、摘果ぶどうやおからを使用した Re-Bone グルメ、ならびに町内農作物を活用した朝食メニューの提供を行い、併せてそれらのPRを実施する。

内容としては「選べるモーニング」を用意し、食パン、ドリンク1杯に加え、2品を選択できる形式とする。選択したメニューが、たんぱく質源となる「赤」・糖質を多く含む「黄色」・ビタミン・食物纖維を多く含む「緑」のいずれに該当するかを考えもらうことで、学びの要素を取り入れる。プログラム冒頭でその趣

旨を説明し、親子で楽しみながら食育を学んでもらうこと目的としている。

周知方法については、広報2月号、町ホームページ、LINE、小中学生の保護者向けアプリ「totoru」を活用して発信する予定である。

◇委員

今回、ラソプラザでモーニングの提供ができれば面白い取組になると考え、農家の方や地域の方にも協力を依頼している。また、地元と役場の複数課で協力して、良いつながりが生まれるとよいと考えている。

◇委員

アドバイザーの意見を踏まえ、朝食の大切さに重点を置いた取組になっている。それぞれの食材に何の栄養があり、自分の身体にどのような影響があるのか、子どもにも分かりやすく、目に見える形で学べる内容にできればよいと考えている。

◇委員長

会場や運営上の都合によると思うが、「モーニング」という名称であれば、もう少し早い時間帯でもよいのではないか。

◆事務局

休日開催のため、ブランチとして参加してもらうことも想定している。

◇委員

ラソプラザがいつも9時30分から提供を開始しているため、この時間とした。また、せっかく開催するなら多くの人に参加してほしいため、2部制とした。

◆事務局

委員の方には、当日の試食は難しいが、是非見学していただき内容を共有できればと考えている。

◇委員長

対象が小中学生とその保護者であり、会場や日程に余裕があれば、2・3日実施することも検討できるのではないか。

◆事務局

まずは実施してみて、好評であれば夏休みの開催や、役場職員を対象に開催しても面白いのではないかと考えている。

◇委員

黄色の食材に該当する食パンは、最初から朝食のセットに含まれているのか。

◆事務局

食パンは必須としている。黄色の食材として選択できる食材はコーンスープのみで、必ず3色すべてを選ばなければならないというものではない。選んだ結果が赤・黄・緑のどれに該当したか、普段の食事がどのようにになっているのかを振り返る形式にしており、保護者への啓発も意図している。

◇委員

何か追加できそうなメニューがあれば提案してほしい。

◇委員長

時間が9時30分から10時30分となっているが、自由集合なのか。

◆事務局

9時30分に参加者に集まつてもらい、参加者に対し一番最初に食の知識について説明を行う予定である。

◇委員

スープはコーンスープとコンソメスープの2種類なのか。ミネストローネをメニューに加えると、様々な野菜を使用でき、栄養面的にいいのではないか。

◇委員

3月は野菜の種類が少ないため、2種類のスープとしている。

◇委員

食材を色分けした点は非常に良い発想である。子どもと保護者で各食材が何色なのか学び、家庭での食事でも話し合うきっかけにもなり、会話が生まれる点で意義があると感じた。

（議題3）令和8年度事業計画について

◆事務局

令和8年度の食育事業のスケジュールについて説明。

令和8年度は、食育推進委員会設立から3年目となるため、これまでの取組を踏まえ、事業内容の見直しを行いながら、スケジュール案のとおり進めていく予定である。

食育体験プログラムについては、実施回数や時期を調整しつつ継続するほか、議題2で説明したモーニング事業についても、時期や対象者を変更して2回目の実施を検討する。グルぐるキャンペーンについても、実施方法を工夫しながら継続する。学校給食では、町内農作物を活用した提供事業を来年度も4品程度実施する予定であり、あわせて各学校での食育の取組への協力・取材を

行う。また、保育園給食では、希望する園を対象に、農作物の作り方を学ぶ機会を設ける予定である。

朝食啓発や Re-Bone の推進についても引き続き取り組み、具体的な内容は委員の意見を伺いながら進めていきたい。

◇委員長

幼児期から食育の大切さを知ることができるために、保育園での取組は非常にいいと感じる。

◆事務局

新たな予算措置は難しいが、今年度同様、学校や保育園の取り組みに対して取材や協力をを行う形で進めていきたい。委員の中でやってみたい取組があれば、ぜひ提案してほしい。

◇委員長

他市町で同様の取組があれば、見学させてもらうことで新たな気づきが得られるのではないか。

◆事務局

東海市ではトマトを活用したキャンペーンを以前から実施しているため、参考にできればと考えている。

◇委員

計画を立てることは重要であり、活動が少しずつ増えてきているのは良い点である。一方で、達成すべき目標が視覚的に分かる形で示されると、「何が足りないか」「どこを強化したいか」といった意見が出やすくなる。「いい活動だった」で終わるのではなく、活動ごとの目標設定や達成度、次年度に向けた計画を示した方が、議論が深まりやすいと感じる。現状では、取組がやや抽象的に進んでいる印象があるため、もう一步踏み込んだ整理ができるとよい。

◇委員長

グルぐるキャンペーンについても、応募者数や参加率など、目標を一つ設定し、少しでも多くの人に参加してもらえるようにするとよい。参加者が増えることは、周知が進んでいる指標にもなる。

◇委員

地域福祉計画に関わっており、担当課では「みんなでレストラン」を実施している。町内で様々な課が類似した取組を行っているが、情報が分散しておりもったいないと感じている。各課が連携し相乗効果を生むことで、朝食啓発にも結び付けられるのではないか。町が実施している事業を関連付け、より発展させていけ

るとよい。

#### (議題4) その他

##### 卯ノ里小学校とマルスのお弁当企画について

###### ◆事務局

卯ノ里小学校とマルス、トーエイで実施したお弁当企画について説明。

卯ノ里小学校5年生とトーエイで育てたお米と、マルスの石浜牛を使用した弁当を開発した。5年生が夏休みの宿題として考案した案の中から、マルス来店客による投票により弁当の内容を決定し、マルス東ヶ丘店で販売した。また、販売に先立ち11月19日に卯ノ里小学校でお披露目会を開催し、児童、トーエイ及びマルスによる試食を行った。

###### ◇委員

トーエイの田んぼを活用し、一昨年から児童とともに田植えや稻刈りを実施してきた。昨年、マルスにより石浜牛や流通をテーマとした授業を行った。栽培から販売までの一連の取組はお仕事体験の要素もあり、児童も楽しみながら参加していた。

##### 森岡小学校3年生 ぶどうフェスについて、摘果ぶどうとデンソーハチミツのバウムクーヘンについて

###### ◆事務局

森岡小学校3年生の総合の授業で行ったぶどうフェスについて説明。

総合の授業で学んだ東浦町の特産品であるぶどうや摘果ぶどうについての成果を「ぶどうフェス」として発表した。学んだ内容をポスターにまとめ掲示し、摘果ぶどうのスイーツレシピの考案、ぶどうをテーマにしたスタンプラリーやゲーム、ステージ発表を行った。イベントには森岡区長やぶどう農家、ル・ブラン・ネージュも参加した。

摘果ぶどうとデンソーハチミツのバウムクーヘンについて説明。

町内に工場を持つ株式会社オヴァールが、摘果ぶどうを使ったバウムクーヘンを開発。今後Re-Boneグルメや町内の祭りへの参加も声掛けしていく。

###### ◇委員長

オヴァールはデンソーハチミツが経営しているケーキ屋なのか。

◆事務局

デンソーが社会貢献活動の一環ではちみつを栽培しており、それはちみつと環境に配慮した摘果ぶどうを活用し、オヴァールがバウムクーヘンを開発した。

◇委員

摘果ぶどうについて、元々オヴァールが注目していた食材だったのか。

◆事務局

オヴァールが地域で SDGs に関する食材を探す中で、未利用資源の活用余地がある摘果ぶどうの存在を知った。また、町が摘果ぶどうを試作用に企業に提供していることを、オヴァールがぶどう農家から聞いたことをきっかけに、商品開発に至った。

◇委員

森岡小学校のぶどうフェスについて、摘果ぶどうスイーツグランプリなどの取組も行われているが、商品開発のヒントになるようなものはなかったか。

◆事務局

当日はル・ブラン・ネージュの関係者も参加しており、共に見学した。また、学校の先生と調整しながら、子どもたちが示してくれたアイデアを今後の取組のヒントとして事業者に展開し、少しでも形にできればと考えている。

◇委員長

以前レシピ募集を行った際、多くの応募があった。「このような商品を作ってほしい」という要望が明確であれば、店舗側も取り組みやすくなるのではないか。

◇委員

子どもたちを巻き込んだまちづくりは、強く印象に残る取組である。子どもの頃に授業で体験した活動は、大人になってからも活かされると実感している。一方で、商品開発は事業者にとってハードルが高く、専門家の意見が必ずしも結び付かないこともある。しかし、若い世代の自由な発想の力は大きく、意外な化学反応を生む可能性がある。参加したい事業者と子どもたちを結び付けるなど、子どもを巻き込んだ商品開発の仕組みができるとよい。緒川地区と森岡地区は中学校が一緒になることもあります、町内の子どもたちの中で「東浦町といえばぶどう」といったイメージが強い。そのくらいエネルギーのあるキーワードであるため、町として関連事業を増やし、他分野へ派生していく動きにつなげて

いけると望ましい。

#### ◇アドバイザー

今回の会議では良い意見が多く出ているが、それらを整理し、方向性として示す役割は行政が担う必要がある。食育を通して町として何をやりたいのかを共有するため、骨折状況や筋力低下などの課題を、町のデータに基づいて示すべきである。課題や目的が明確でなければ、事業は単発的なイベントとして終わってしまう。地域再生マネージャー事業についても、専門家が町の取り組みの一部分だけを見ても伝わらないため、町が何をやりたくてどうしたいのか、ビジョンを共有しなければ十分な効果は得られない。

議題1のRe-Boneキャンペーンについて、実施したことで何がよくなったのか、成果をエビデンスに基づいて評価する必要がある。Re-Bone グルメの名称は一定程度浸透してきているが、キャンペーン期間が長いので夏と冬など季節に合わせて開催したり、各年代に合わせた取り組みを行うなど、誰を対象に啓発するのかを明確にした取組が求められる。

議題2のRe-Boneモーニング事業については、各栄養素の役割を分かりやすく示し、「なぜ食事をするのか」を伝えることが重要である。また、食事を通じて家族や他者との会話を促す視点を持つことで、より良い事業になる。学校での実施や出前講座など、実施方法の工夫も考えられる。

議題3の令和8年度事業計画については、イベント同士の連携が弱く、単年で終わっている印象があるため、目標や成果を整理すべきである。また、子どもたちの発想や参加には大きな可能性があり、早期体験の機会を積極的に取り入れるべきである。

オヴァール事業については、町単独ではなく、周辺自治体と連携する視点が必要であり、東浦町と刈谷市の共同イベントなども有効と考える。

今後は、食育を通した目的・目標・手段を事業ごとに整理し、委員から出た意見を行政が整理したうえで、次回以降の議論に繋げてほしい。また、骨折率などのデータを踏まえ、「誰を対象に、何を行うのか」を明確にした事業設計が重要である。

閉会。